

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270300534		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	いなげケアセンターそよ風 GH のぞみ		
所在地	千葉市稲毛区穴川3-6-12		
自己評価作成日	平成24年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO共生		
所在地	柏市光ヶ丘団地3-3-404		
訪問調査日	平成24年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所しても(認知症になっても)今までの暮らしと変わらない支援を心掛け、毎日の散歩や、レクリエーションによる日々の暮らしの充実と希望に沿った外出、行事等、多く取り入れています。
御家族地域を招待しての年間行事では、夏祭り、新年会の餅つき等、地域の一人として暮らすことを支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護保険でグループホーム利用が可能になった直後の平成16年に立上げられた3ユニットののホームである。同法人経営のショートステイ、デイサービス、福祉用具貸与・販売などとの併設で、住宅地を含む市街化区域内社会資源として地域に根ざした運営が行われている。利用者調査の自由記述欄には【入所してから8年間、家族の顔を忘れても職員さんと目が合うと笑っている】と、施設運営や職員の優しさに救われると書かれ、食事は職員の手作りであり、重度化への対応、施設の清潔さ、的確な連絡など、施設運営とサービスが評価され、漸増する車椅子やきめ細かなサービスに、職員の介護労働への心配を家族が綴っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス施設として理念に添って散歩時等地域の方へは笑顔と挨拶を行ない、地域の方からも声を掛けて頂いている。地域の方を招待する行事でも、職員一丸となって取り組んでいる。	ユニットごとに理念を持っているが運営の根本はゆったりと楽しく自由に認知症の方々の【当たり前暮らしをサポート】することであり、利用者の自己決定を尊重した、穏かな暮らしが行える支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を通して、地域の夏祭り、区民祭り等積極的に参加している。幼稚園の運動会等も招待を受け応援に出掛けている。	商業・教育・オフィス・行政施設などに近接した市街化が行き届いた地域であり、この地域での事業所活動がしっかりと謙虚に行われている。隣地が神域でもあり、利用者が溶け込み交流しやすい環境でもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催。又、地域の方を招待する行事では、介護相談も行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	センターで行なわれている行事・研修・事故報告・近況等、各ユニットから報告。皆様から出た様々な意見は、改善すべきはすぐ改善し要望等も取り入れる様にしている。	事業所の運営状況等を報告し、外部参加者の意見を聞く機会として大切に考え対応している。各ユニットの管理者も参加し、様々な意見を傾聴している。将来は、介護事業所の専門性を生かした更なる地域への貢献も考えている。	取り掛かりは大変な作業と想像できますが、介護のプロによる日常的ケアの指導貢献は、介護事業所以外では協力が出来ない地域貢献です。病人を抱え苦悩する家族を支援できる最高の地域サービスではないでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的開催される会議には、あんしんケアセンター、民生委員の方々に毎回参加頂いている。毎月来所して下さる介護相談員とも相互に協力関係を築いている。	市の職員に対し事業所は様々な相談を提起し、担当者も十分な対応をしてくれる。また地域包括センターとも相互に協力関係を築いている。また社会的課題である認知症高齢者と家族を支える動機を地域貢献課題として探っている。	家族が突然介護保険適用者となり、動揺、消耗するのは家族です。在宅、入所でも、技術的な方途や制度の紹介をして戴ける貢献は、何より助かります。上記同様、住民にとって身近な情報発信源は貴重な地域の資源であります。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置。全職員が順番に参加し話し合いを行なっている。会議の議事録は、センター全体で閲覧している。又、言葉の拘束についても事務所に掲示し、意識の統一を図っている。	利用者調査の自由記述に【職員の一人ひとりが利用者への気配りを絶やさず、上手にコミュニケーションをはかり血の通った対応が感じられる】とある。身体拘束廃止委員会活動の貢献等、現場努力の積み重ねが感じられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県主催の高齢者虐待、身体拘束廃止研修に積極的に申し込み、多数の職員が受講する体制を取っている。また、グレーゾーンについても会議で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で、成年後見制度について研修を行ない、参加しない職員にもミーティングで伝えている。御家族から相談を受けた場合も助言している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明を質疑応答を交えながら、時間を掛け行い、事業所で出来る事、出来ない事を明確に説明。看取りについても不安が無い様確認し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度サービスについて無記名のアンケートを配布。運営推進会議でも意見交換を行っている。介護相談員からも利用者様が漏らした事等、得た情報は、ミーティングや、問い合わせシートで情報を共有し、運営に反映させている。	上の欄の家族からの意見でも【本人の意思を大事に尊重していると思う】とある。27家族から23件の感謝が綴られている現状は、左の自己評価の結果として、傾聴態度への評価として受止めたい。	10,11,12などの意見は職員の作業の質と量、作業の複雑さに思いを馳せ、労働量と質が過重なのではないか、と心配を綴っています。利用者を背負った家族の深刻な体験から、運営の継続性を願う家族意見を綴っています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から、職員の意見、提案を大切に業務やケアに反映させている。毎月のミーティングも職員が中心になって会議を進めるよう働きかけている。又必要な時は、声を掛け面談を行なっている。	自己評価と顧客が記述したサービスの価値が相互に良い関係で結びつき、運営に貢献できるサイクルが出来ていると思われる。介護業務において顧客満足に関する実践例として尊重したい。	上記のように常に顧客満足を追求し自己研鑽に時間を費やす職員に対する経営側の、さらなる評価と家族との信頼維持を考慮され、絶望と過重な労働に明け暮れた家族からの要望に添う、息長い対応を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員は定期的に自己の実績、取組み等を考課表に記載しそれを基に面談を行なう。契約・パート職員も更新時に面接し、日頃の勤務状況により給与の見直し、又、思い、要望等を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は、年間計画に沿って実施。社外研修も積極的に受講を促進。研修報告書は、全職員が閲覧している。又、働きながらの学びは、日々センター長、管理者が自らの姿勢と口頭で、ケアの方法を指導している。資格取得も推進。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会の研修会に参加や介護相談員受け入れ事業所交流会での情報交換。区内の他事業所とも連携を図り施設見学を実施。感想等、職員に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は、必ずご本人に会い、面談の中で不安、要望等を把握する様、長い時間を掛けゆっくりと思いを伺い傾聴するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用について、相談があった時はご本人の意志とは区別し要望等をしっかり把握、思いを受け止め時には助言を交え、安心して貰える様時間を掛け傾聴する様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と御家族の思いを伺い、改善に向けた支援を提案。入所だけでは無く通所、短期入所等のサービスや、状況により他事業所のサービスに繋げる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の年齢により孫、子供の様に接し、長年の経験から教わったり、又怒られたり、なぐさめあったり、励まされたりと介護者、要介護者の関係を越え、例え教わる事が、少なくなっても感謝の気持ちを忘れ無いようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告で暮らしの様子を報告、年間行事、日課の散歩にも参加をお願いし、日々変化して行く状況を知って頂き、ご本人を共に支援して行く関係を築いてる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所しても、友人、知人が気軽に会いに来られる雰囲気作りや、行きつけの場所への外出支援を行なっている。	特に墓参など、個人的な要望、行動も尊重し支援を行うなど、きめ細かな外出支援を行っている。外出の際のふれあいや人々との絆を大切にす支援に努めている。	自己評価も実践状況も過年度とあまり変化はないですが、30日/27名という現実にはヘビィだと推察します。利用者調査結果も強い支持はありませんが、毎日のお散歩を利用者が完全に忘れている場合が多く、正確な調査結果が出にくい状況があります。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を把握、相性によって席の配置を考慮、利用者同士の関係が円滑に行く様、時に見守り、時に橋渡しを行い、どんな状況でも孤立しない気遣いを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も遊びに来て頂いたり、転居先に面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉に出されたニーズは極力叶えるように努めている。日ごろの会話の中からもご希望を伺う会話作りをし、困難な方も生活歴から思いを汲み取るよう考慮している。	日々の行動や表情から、ご本人の思いや希望を汲み取り、ご本人の思いに寄りそうケアを行っている。思い等の把握が困難な方には家族・友人・親戚など訪問の際に意見を聞く等、様々な工夫し支援している。	この道に就いた職員でなければ不可能な支援技術だと考えます。ご利用者の今後の人生が変る【凄い技術】が絶え間なく和やかにご利用者を包む労働環境の継続を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には様々な分野からの情報を基にアセスメントを十分行い職員で情報共有。入所後もご本人との会話の中や、御家族、ご友人、ご親戚の方から情報収集しサービスにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の暮らしのリズム、状態を行動、動作、言葉から感じる様努め、記録、ミーティング、問い合わせシート等で情報共有、変化がみられた時は随時カンファを行い援助の計画を見直している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新たな課題や、心身の変化がみられた時は、ご本人、ご家族の希望を伺い、かかりつけドクター、ケアマネージャー、職員で話し合いを持ち、今必要なケアを提供する様心掛けている。	介護計画は毎月のアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、認定期間ごとの見直しはもとより、ご本人の状況変化に応じ、ご本人・家族・かかりつけ医・職員間で話し合い、検討の上、臨機応変に対応している。	24、25と同様、23のコアです。利用者調査結果を見ると、制度の根幹である作業を現場で正確に家族との協働で担ってきた経過が丹念に書かれ家族の習熟度が感じられます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄チェック表、食事摂取表等、個々のチェック表を把握し、状況、様子を個別記録、介護日誌に記入。危険に感じた事は、ヒヤリはつとに書き職員間で情報共有。変化があれば随時担当者会議を行ない、介護計画、援助計画を見直して。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、要望に応じ外出、通院時の送迎等、必要に応じ支援している。又、自分達と同じ様な暮らし方に近づける様努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア(傾聴、フラダンス、学生の介護実習等)との交流。運営推進会議には、毎回民生委員が出席、施設の現状を伝えている。介護相談員とも情報共有し時には、ボランティアを紹介して貰っている。」		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の継続支援を行なっている。希望に応じての施設の往診医とは、ささいな事でも相談、定期以外の往診体制と看取りまでの協力関係が適切に築かれている。	利用者・家族の安心に繋がるかかりつけ医を大切に考えている。また訪問診療医師の存在も有難い。医院や薬局の休日の往診時には事前に把握した容態に見合う薬を持参され、すぐ与薬でき、処方箋片手の職員外出が不要となる。利用者を良く診て頂きとても有難い。	【かかりつけ医の継続支援】の言葉は有難い響きがありますが、この作業の継続は家族の負担、或は現場職員が職場から長時間離れざるを得ない作業です。家族は保険料+αを負担する場合があります。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時は施設のナースに報告、往診医と連携を取り合い看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ずスタッフが同行し情報提供を行い、御家族、ドクターとの面談にも必ず同席している。面会も細めに行い利用者に安心感を与えると共に、情報を収集、早期退院への支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、管理者は入所時から終末期について希望を話し合っている。ターミナル期に入った際は常駐看護師との連携を図り、マニュアルに沿って十分に話し合い、心構えを持てる様取り組んでいる。	終末期については、入居時から折に触れ家族・協力医・管理者間で話し合いが持たれている。看取り時には、医師・看護師・職員の協力の下、丁寧な対応があり、また家族の不安や相談にも応じている。	かかりつけ医との良好な関係の状況は安心に繋がります。良好な関係は終末期利用者と職員にもあるようです。そのケースに当る職員への信頼と感謝が寄せられ、職員も利用者の人生の最後を美しく安らかに送れるこの職業を誇りに思う、とのコメントがあります。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	近隣消防署での普通救命講習に参加。緊急時のマニュアルも整備し、会議で話し合いを持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防設備点検、自主点検を行なっている。万一に備え、備蓄を行い、年二回避難訓練を実施。自治会の防災訓練にも参加している。	消防署の協力を得て、夜間をも想定した避難訓練を行っている。スプリンクラーはすでに全館設置済みである。非常災害時に近隣からの応援は期待出来るが、更なる応援をお願いをすべく計画中である。	近隣の応援も大切ですが、食糧の備蓄について検討中の事業所があります。わずかなスープでおかゆとなるフレークなど、離乳食を含めた食材の活用と備蓄を視野に、可能な日数×人数分の検討も安心の基となります。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際の声掛け、トイレ誘導も小声で行っている。その方の情報についても、周りに聞こえない様に行い、その方が周りに恥じない声掛けを考慮している。	入居者の誇りを大切に、尊厳を損ねたりしない様、丁寧な言葉で話し掛けるなど、常に配慮をしている。様々な場面での適切な言葉の使い方を記し、各ユニットの壁に掲げている。	利用者調査の自由記述欄では、この対応についても【大切に対応してもらって有難い】という記述があります。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のお茶はメニューから選んで頂き、毎食時のお茶もご希望を伺い温かいもの冷たいものを提供し、おやつ、出前、外食も選択して頂いている。無理に日課を押し付けるのではなく、自己主張出来る支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の散歩は希望に添って行い、レクリエーション等も無理に勧めず一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出、行事等は相談しながら服を選んで頂き、化粧もして頂いて。必ずお化粧する方には、毎朝声掛けし、パーマ、ヘアカラー等、此処にいてもその人らしさを継続出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を伺い、なるべく沿う様にしている。好きなものは多めに、嫌いなものは無理じいせず、出前、購入しての昼食と、私たちと変わらない暮らしを支援。力に合わせ、下ごしらえ、味付け、盛り付け、配膳準備等、一緒にやって頂いて。	入居者の技量の中で手伝いをお願いしている。入居者の希望に添い、外食や出前、コンビニでの調達もある。誕生日にはレストランでその入居者の好きな食事で祝うなど、楽しみとして定着している。	元主婦の技量を尊重し、力を発揮して頂き、嫁や娘に教えるように振舞う姿に往年の主婦の自信が見えるでしょうか。暮らしの知恵の宝庫でもあるご利用者との作業はマルチ的作業療法かもしれません。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日チェック表に記録。水分制限者、摂取量の増減等把握。水分不足や、栄養不足にならない様、取り易い形の代替品等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来ない方には介助、声掛けの必要な方には声掛けし、義歯の方には、洗浄剤を使用している。口腔内のトラブルが生じた場合は訪問歯科と連携し口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握。出る前の誘導、声掛けを行なっている。又、立位困難な方も二人介助でトイレでの排泄を行い、状況を見て、パット、リハパンを減らす、又、なるべく使用しない支援に取り組んでいる。	排泄記録を基に行動や表情から排泄誘導を行い、立位困難な方には二人で介助を行ってトイレでの排泄支援するなど、パットやリハパンの使用を減らし自立に向けた支援をしている。家族負担軽減にも繋がっている。	排泄自立がどれほどご本人を輝かせるか、家族は身に沁みて受止めておられます。プロで無い家族が大変な経験を経て、排泄介助の大変さと利用者の自立を評価しておられます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時、おやつ等、乳製品を多く取り入れ、散歩、運動を日課とし自然排便を促進している。又、長く滞ることの無い様ドクターと連携し、負担が少ない様な排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回は入って頂いているが状況により、適宜入浴を行い、拒否の方は無理強いせず、気持ちよく入って頂けるよう、声掛け、タイミングを工夫している。	入浴は週3回、二人介助を基本としている。入浴準備を入居者と一緒に行うなど、また入浴時間も出来る限り希望に合わせ、リラックスタイムとなる様支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせた就寝時間と、飲み物、おやつ提供、冷え性の方には、足湯等で安眠を促している。日中もお昼寝等、状況に応じ休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬表には薬の効能や与薬量など薬品情報を記入し全職員が把握する様にしている。又、薬が変わった時は服薬後の様子等を観察し、変化を記録。往診、受診記録は全員が情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや、裁縫、書道、囲碁、将棋、スポーツ等、個々の生活歴から得意分野を披露できる場面を作り、安全に配慮し喫煙の環境も整えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の散歩、外出、外食、公園でのピクニック、買い物等、ご家族の協力を頂きながら戸外へ積極的に出掛けている。	家族の協力もあり近隣の公園や買い物、外食など頻繁に外出している。入居者の希望で馴染みの美容院への送迎、またピクニックでは手作り弁当やコンビニで好きな物を選び楽しんで頂く。食事制限のある利用者の盛付けは工夫をし楽しめるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事で安心される方には希望により小額を所持して頂いてる。その他の方も、外出の際、お預かりしているお小遣いの中から支払う様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用し、御家族、知人に電話を掛ける場合は、居室で自由に掛けて頂き、電話番号等、分からなくなった時は援助している。年賀状、暑中見舞いは葉書をこちらで用意、書ける方には自筆を促し、困難な方は代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3食、食事作りをしてることで、ご飯の炊ける匂い、煮物の匂い等、生活を感じて頂ける。又季節の果物は欠かさない。フロアの飾付けは、季節に沿って一緒に制作。流す音楽は、馴染みの物を揃え、安心の空間を、目、耳、鼻で感じて頂けるよう工夫している。	各フロアは広く温もりのある造りである。家具の配置も車椅子の動線が考慮されている。利用者と職員の共同作品がフロアを彩っている。利用者の希望で唱歌・演歌・クラシックなどいつも音楽が流れ会話も弾み、利用者の楽しむ空間となっている。	フロアの雰囲気や色合いに変化を持たせています。利用者さんも実にゆったりと暮せて、和やかな雰囲気です。職員のステーションも安全確保と見守り効果が上がる角度で設置されています。まず構想と広さが有って安全も質の良い介護も整えられる、実感がわきます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良いエレベーターホールに椅子を配置。落ち着かない方もそこに座る事で、落ち着きを取り戻しフロアに戻られている。リビングのソファは広く配置、状況により寝転がる方もいられる。テーブル席では、会話が弾んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、表札代わりの写真を飾っている。家具、寝具、衣類等は、新しい物では無く、使用していた物を持参して頂いてる。家族の写真、ご本人の作品も飾られている。	入居者の写真、好きな動物の写真が表札の代わりにドアに掲示されている。居室内は自宅との環境の差が生じない様使い慣れた家具や衣類などが持ち込まれ、清掃も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、フロアには手摺りがある。拭き掃除は、手摺りに沿いやっている。トイレの表示は、わかり易い位置で、わかり易い文字で表示してる。		